

つながり・支え合いのある教育を目指して

新型コロナウイルスの感染拡大がまだ抑え込まれていない閉塞した社会状況の中で、人と人とのつながり、互いの支え合いを求める状況が増々強くなっていると感じています。

仕事のスタイルが変わり、ライフスタイルにも変化が生まれてきましたが、互いをいたり、思いやる気持ちは変わっていないのではないのでしょうか。

教育現場においても、マスクや消毒、換気など三密を避ける生活様式が当たり前のように入り入れられています。このような状況でも、学校はすべての子どもにとって、自分らしく学べる場であり、つながりの持てる居場所になるよう日々取り組んでいます。

市内の学校訪問を通して感じたのは、それぞれの学校が工夫と発想の転換を図り、今まで以上に学習環境を整え、授業も含めた諸活動に取り組んでいる様子を確認することができたことです。

- 給食時：テレビを活用し、動画配信を通して、先生方の紹介や学校の様子を子どもたちに伝える取り組み
- 音楽の授業：歌を歌えない代わりに、ギターを購入し授業に取り入れた活動
- ICT機器の活用：タブレットを使っての観察や調べ学習、諸グループでの意見交換
- 委員会活動：児童生徒が自主的に企画、運営した委員会活動の紹介等

子どもたちは、何事においても、「やってみる」(チャレンジする)ことは価値があることで、そこから学ぶことが多々あると実感することが出来ること。そして、失敗を恐れず、活動することで自信につながり、個々の成長を導いていくことを学んでいると思います。

また、授業参観や保護者会の持ち方等もオンラインを活用し、密を避ける方法を取り入れ実施するなど、保護者のご理解、ご協力のもと、教育活動が行われていることも確認できました。

改めて、学校はすべての子どもにとって安心できる居場所であり、そして、子どもの見えていない内面や背景など、毎日の小さな変化に目を配り、アンテナを高くして学校全体で情報を共有し、瞬時に行動に移すことができる体制づくりを進めていくことも重要であると感じます。

学校は、学校に関わるすべての「人」のつながり・支え合いにより、教育活動が成り立っています。

今後とも、すべての子どもが元気に学校生活を送れるよう市教育委員会と学校が連携を深め取り組んで参りますので、保護者の皆様及び地域の皆様のご支援、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

流山市教育長 田中 弘美